



## ANALISIS PENGGUNAAN GAIRAIGO YANG DIKUTI VERBA SURU (動詞「する」が付く外来語の使用の分析)

Iin Suhartini ✉

Jurusan Bahasa dan Sastra Asing, Fakultas Bahasa dan Seni, Universitas Negeri Semarang,  
Indonesia

### Info Artikel

*Sejarah Artikel:*

Diterima April 2013  
Disetujui April 2013  
Dipublikasikan April  
2013

*Keywords:*

*gairaigo diikuti suru*

### Abstrak

Kosa kata dalam bahasa Jepang disebut dengan goi. Goi adalah kumpulan kata-kata yang digunakan oleh suatu wilayah pengguna dan bidang keilmuan. Berdasarkan asal usulnya goi dapat terbagi menjadi 4 golongan yaitu wago, kango, gairaigo dan konshugo. Dari keempat jenis goi tersebut, gairaigo memiliki karakteristik yang membedakan dengan jenis goi yang lain. Salah satunya adalah selain dijepangkan, gairaigo juga ditulis dengan huruf katakana dan asal usul pembentukan kata gairaigo berasal dari berbagai negara. Dewasa ini, penggunaan gairaigo di Jepang semakin meningkat, hal tersebut disebabkan karena semakin tinggi tingkat pendidikan dan perkembangan teknologi. Dalam pemakaiannya, terkadang ada gairaigo yang dapat mengalami perubahan kelas kata, misalnya kelas kata nomina menjadi verba. Contoh : supootsu suru (スポーツする, berolah raga). Nomina yang biasa menempel pada suru merupakan nomina yang menunjukkan perilaku seperti benkyou (belajar), choisu (pilihan), dan lain-lain. Namun terdapat nomina gairaigo yang merupakan nomina yang menunjukkan alat dapat digabungkan dengan verba suru, misalnya : airon suru (アイロンする, menyetrika). Selain itu Gairaigo yang diikuti verba suru terkadang mempunyai padanan kata dalam bahasa Jepang. Misalnya kosa kata adobaisu suru dan jogen suru yang mempunyai arti menasehati. Hal ini disebabkan karena adanya penyerapan bahasa asing di Jepang. Sehingga peneliti merasa bahwa perlu diadakan penelitian tentang gairaigo yang diikuti verba suru.

© 2013 Universitas Negeri Semarang

✉ Alamat korespondensi:

Gedung B4 Lantai 1 FBS Unnes  
Kampus Sekaran, Gunungpati, Semarang, 50229  
E-mail: pbjunnes@gmail.com

ISSN 2252-6250

## 背景

語彙とは地域（東京、広島、関西など）、ユーザー（子供、青年、老人など）、及び科学分野（医学、農学、工学など）によって使用される語の集合である。語日本では、語種は4つに分類される。すなわち和語、漢語、外来語、及び混種語である。

その品詞の4つの分類の中で、外来語は他の語と異なって、特徴がある。例えば、1) 外来語はカタカナで書かれ、起源的にも外国語から借り入れられたものであること、2) 外来語の言葉は長すぎると感じられることがあるため、短縮されたものがある3) 使用の発展につれて、外来語の元の意味が変わることがあること、である。

最近、日本で使用されている外来語はだんだん増加している。その原因は、1) 外国文化に起源を有すること・物について説明する同等の言葉が日本語にないことで、2) 外来語を使用する際に他の言葉で表現できない意味のニュアンスがあることで、3) 日本での教育のレベルが高くなり、技術の発展である。

品詞分類については、外来語の大半は名詞だが、形容詞に含まれるものもある。それに、外来語は動詞になることができる。例えば、その外来語のあとに動詞「する」が付けば動詞になる。例えば「スポーツする」である。「する」は「サ行変格活用動詞」、または、通常短縮して「サ変動詞」と呼ばれる動詞の一つである。

「する」は他の多くの言葉と合わせて複合動詞を形成する。和語にも外来語の名詞にも付くことがある。例えば:

旅行→旅行する、  
スポーツ→スポーツする、である。

大抵、「する」が付く名詞は、動作・行為を表す名詞である。例えば：勉強、チョイス、イメージなどである。「する」が付く名詞の幾つかの例の中には、道具を表す外来語の名詞で「する」と合わせることができる

ものもあった。例えば：「アイロンする」である。「アイロン」は道具を表す名詞だが、「する」が付いて「アイロンする」になると、アイロンをかけることの意味になる。そして、動詞「する」が付く外来語は合ってはまる語がある可能性がある。例えば、「アドバイスする」と「助言する」である。この二つ語の意味は同じである。すなわち、支えることである。でも、合ってはまる語がない動詞「する」が付く外来語があることがある。その原因は外文化は日本に入って、その外国語の言葉は日本での合ってはまる語がないからである。

上記の説明に基づいて、筆者は外来語と「する」について研究をする必要と考えている。外来語は発展する語彙の分類の一つである。そのため、筆者は「する」が付く外来語について研究することを決めた。この研究のタイトルは、「動詞「する」が付く外来語の使用の分析」である。

## 基礎的な理論

### a. 語彙

玉村（2001:15）によると、語彙とは「ある一定の範囲の中で用いられる語の集合」であるということになる。

#### i) 語彙の語種

玉村（2001:100）は語種によって、語彙を4つに分類する。

- 1) 和語
- 2) 漢語
- 3) 外来語
- 4) 混種語

### b. 外来語

日本語に外来語は他の語と異って、特徴がある。松村（2007:212）は外国からはいつてきて、その国のことばとして使われるようになったことば。

#### i) 外来語が使う理由

スジアントとダヒディ (2007:105) によると、いくつかの外来語が使う理由がある。すなわち、

- 1) 文化によるものを説明するための日本語での語が存在しない。
- 2) 外国語に含まれる感覚は日本語の一致する語と象られない。
- 3) 外来語になった外国語は便利で効率的だと考えられる。
- 4) 語感によると、外国語はたっとく、よく、和やかな感覚の価値があるようである。

ii) 外来語の起源

日本語にある外来語はいさまざまな国から言葉から取られた。浅野 (1998:59) はいくつか外国から言葉について説明する。例えば、

- 1) イギリス語から来た外来語。すなわち、アイロン、イメージ、ゲスト等である。
- 2) ドイツ語から来た外来語。すなわち、アルバイト、カプセル、ギプス等である。
- 3) フランス語から来た外来語。すなわち、クロワサン、クレヨン、コンクール等である。

iii) 外来語の特徴

スジアントとダヒディ (2007:105) によると、外来語は和語、漢語、及び混種語とは異なることがたくさんある。外来語の特徴は次の通りである。

- 1) 外来語はカタカナで書かれる。
- 2) 外来語の使用は分野と有限な社会に偏って見えて、使用頻度も低い。
- 3) 具体的な名詞はもっと多い
- 4) 日本方が作った外来語もある。
- 5) 濁音で初めて語が多い

c. 品詞分類

村上 (2007:147) は「日本語には品詞が10ある」と述べている。それは動詞、形容

詞、形容動詞、名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動し、助動詞、助詞である。

d. 名詞

哲夫 (2005:85) によると、名詞は人や事物などを表して、文が描く事態の主体や対象といった意味関係で文の構成メンバーになる品詞である。

i) 名詞の種類

Sudjianto (1995) によると、名詞は5つに分けられる。名詞の種類は次の通りである p.35。

- 1) 普通名詞
- 2) 固有名詞
- 3) 数詞
- 4) 代名詞
- 5) 形式名詞

e. 動詞「する」

森田 (1962:502) によると、「する」の意味は次の通りである。

1. 動作を行う。やる。
2. 人をある地位・ポストにつける。また、ものを他の物に変える。
3. ある係り・役・仕事をする
4. ねだんである。
5. 時間がすぎる。たつ。
6. 何かを感じずる
7. 形・色・性格などがある。
8. ある名詞や副詞のあとについて動詞を作る。
9. 「～にしては」の形で、「その程度で考えれば」という意味を表す。
10. 「～にしても」「～としても」の形で、「そのような場合でも」という意味を表す。
11. 「～にしる(～にせよ)」の形で、あるものを例としてあげ、「それもほかのものと同じように」という気持ちを表す。
12. 「～とすると」「～とすれば」「～したら」などの形で、「かりにそう考えた場合には」というを表す。

## 研究の方法

本研究の方法は次の手順ですすめた。

- a. 動詞「する」が付く外来語を研究対象として決めた。
- b. 研究の話題に関係している本または資源を集めた。
- c. 集めた資源で動詞「する」が付く外来語を探した
- d. さまざまな該当事項の資源で動詞「する」が付く外来語の合って填る語を探して、関係当局と協議された。
- e. 起源、品詞、合ってはまる語、使用の比較の基づいて、動詞「する」が付く外来語を分析した。
- f. 分析の結果を結論する。

## 研究の成果

本研究では、動詞「する」が付く外来語が31個得られた。それぞれの言葉は「日本語ジャーナル、J-bridge Beginner、ジュノン雑誌」から取られた。

分析を通じて、次のデータが示すように、1) 動詞「する」が付く外来語の起源、2) 品詞、3) 合って填る語、使用の比較について知ることができる。

- 1) 動詞「する」が付く外来語の起源は大体英語からきた。
- 2) 全ての動詞「する」が付く外来語の品詞は名詞である。
- 3) 動詞「する」が付く外来語は合って填る語がないことがある。
- 4) 動詞「する」が付く外来語と合って填る語との比較については、特定の機能、意味、主語、目的語、事情に基づいて、比較することができる。

## 結論

分析の成果に基づいて、筆者の纏めるは次の通りである。

1. 全ての動詞「する」が付く外来語の品詞は名詞である。
2. 合ってはまる語（和語）がある「する」動詞が付く外来語については特別なことに使用される。それから、比較してみると、「する」動詞が付く外来語のほうが簡単という言葉で、一般的です。
3. 合って填る語（和語）がない動詞「する」が付く外来語については、その理由は、技術の発展、外国文化が入って来たこと、日本での教育のレベルが高くなり、技術の発展からである。例えば：ゲームする、アップする等である。

## DAFTAR PUSTAKA

- Aizawa, Masao, dkk. 2005. *Shippan Nihon Go Kyouiku Jiten*. Tokyo: Taishuukan Shoten
- Asano, Yuriko. 1981. *Goi*. Tokyo: The Japan Foundation.
- Dahidi, Akhmad dan Sudjianto. 2007. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: KBI.
- Departemen Pendidikan Nasional. 2008. *Kamus Besar Bahasa Indonesia [ edisi IV]*. Jakarta: gramedia.
- Hayashi, Ooki. 1990. *Nihon Go Kyouiku Handobukku*, Tokyo: Taishuukan Shoten
- Kesuma, Tri Mastoyo Jati. 2007. *Pengantar (Metode) Penelitian Bahasa*. Yogyakarta: Carasvatibooks.
- Matsumura, Yamaguchi. 1998. *Kokugo Jiten*. Tokyo: Obunsha
- Muraki, Sinjiro. 1991. *Nihon Go Doushi No Shosou*. Tokyo: Hitsuji Shobou.
- Nurhadi. 1995. *Tes Bahasa Pendidikan: Landasan Menyusun Buku Pelajaran Bahasa..* Semarang : IKIP PRESS.
- Sutedi, dedi. 2009. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: UPI Press.
- Sudjianto. 1995. *Gramatika Bahasa Jepang Modern*. Jakarta: Kesaint Blanc
- Shippan Nihongo Kyoiku Jiten*